



# 使いやすさ 設計検討中

# 交流拠点 複合施設

滝沢村交流拠点複合施設と産業雇用創造センター、消防屯所の3棟の建築設計と、約4軒の造成設計と地質調査を現在行っています。

この設計は、昨年度末に策定した「滝沢村交流拠点複合施設基本計画」に基づき行っているもので、具体的な作業は4つの作業部会を作りワークショップなどで部屋の配置や機能を検討しています。

また、基本計画に引き続き「建設推進委員会(※)」を第三者機関として内容を確認していきます。

※建設推進委員会メンバー(委員長・岩手県立大学福祉経営学科長狩野徹教授、自治会連合会と村芸術文化協会、村社会福祉協議会、村観光協会、村婦人団体連絡協議会、村男女共同参画の代表、推薦枠の8人で構成)

## これまでの検討内容

プロポーザル案は、大屋根の下に各部屋があることで、利用者が交流するスペースを確保し、図書館などのメリットを引き出し、エネルギーコストの削減なども併せて行うというものです。

みんなでつくる

### ふれあいの大屋根

「滝沢村交流拠点複合施設」

住民が集う場として、大屋根の下、壁に出来た集落のように顔を出す様々な交流施設がにぎわいをつくります。

ROOF NEWS Vol.1

※部屋の配置はROOFをのり、タイトルとします。

---

**ROOF1 第1回作業部会ワークショップ(全体会)が開催されました。**

H24年10月12日(金)に、滝沢村の福師地区に計画されている交流拠点複合施設の作業部会ワークショップ(全体会)が、村役場2階の大会議室にて開催されました。

作業部会は、複合施設を「利用者がより使いやすく、たくさん利用してもらおう施設」にするために、各室の配置や機能などについて、基本計画や設計者である㈱三益地所設計から提案されたプロポーザル案を基に議論し、その結果をもとに基本設計案を作成することを目標にしています。

コーディネーターからの説明

---

**ROOF2 ワークショップのかたち(全体会と作業部会)**

全体会は、配置等全体に影響する内容や、各部会で出された意見などの全体調整や全体整合を図る場になります。

作業部会は、建物空間を中心とした4つの部会(図書館部会、ホール部会、コミュニティ部会、産業部会)で構成し、個々の部会で専門的に検討を行うものです。構成は、図書館部会では、司書やボランティアなど、ホール部会では、ホール利用者、管理者、専門家など、コミュニティ部会では、施設を利用する後援関係、睦大指導員、施設管理者などです。

ワークショップの様子

---

**ROOF3 今回のワークショップ概要**

今回は、1回目なので全体の共通認識のために、全体会を開催しました。まず、岩手県立大学の狩野先生から昨年の取り組みなどについて説明を受け、次に、岩手大学の三宅先生より、ワークショップの意味や、進め方について聞き、さらに事務局より、複合施設の概要説明を行い、その後、部会ごとに分かれてワークショップを行いました。各部会では、県立大学生が入り、また、岩手大学生がコーディネーターに協力しました。

ワークショップの様子

---

**ROOF4 ワークショップ結果概要**

ホール部会からは、大ホールとホワイエや他の部屋との関係を重視した意見などが、図書館部会からは、利用者や職員の動線や静の部分と賑わいの部分をどう配慮するかといった意見などが、そしてコミュニティ部会からは、ホール、図書館以外の各室について、利用に合わせて各部屋を考慮した方がいいといった意見や各部屋間の連携について提案がなされました。最後に、各部会で出されたアイデアを発表し、全員で内容を確認しました。

各部会発表の様子

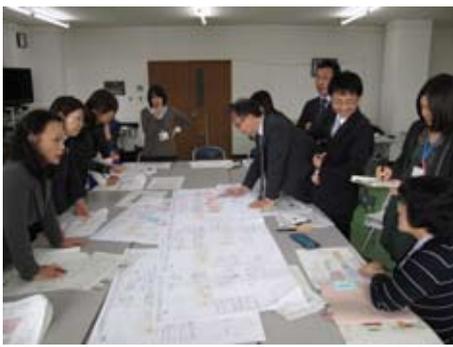
---

**ROOF5 まとめ**

今後は、これらの意見をもとに、また、新たな情報や意見を加えながら、具体的に各室の配置や内容を詰めしていきます。決まった配置などは、話し合いの経過とともに、公表していく予定です。

その趣旨を生かしながら、設計段階でより使いやすいように検討しているものです。

## 「各部会で検討を」



図書館部会で話し合い

**ホール部会**(ホール利用者やホール専門家、施設管理者などで構成)では、ホール(約500席)を村民の発表の場としつつも、ホールの格を上げながら多目的利用でより使い勝手が高まる工夫について話し合っています。

**図書館部会**(司書や図書館利用者、図書館ボランティアなどで構成)では、新たな図書館ファンを増やす仕掛けや、複合施設内にあるメリットを活かす工夫などを話し合っています。

**コミュニティ部会**(ホールと図書館以外の部屋を検討。睦大指導員や施設管理者、

育児教室従事者などで構成)では、各室が相互に利用しやすいこと、交流広場やキッズルームの使いやすさなどについて話し合っています。

**産業部会**(農業関係者や商工観光関係者などで構成)では、産直などの視察を行いながら、村の観光や特産品開発の拠点としての産業雇用創造センターのあり方について話し合っています。

現在は、各部屋や施設の配置を中心に検討していますが、今後各部屋の具体的な内容に入り、基本設計を本年6月ごろまでに終える予定です。

また、再生可能エネルギーの利用や木材の活用などについても、併せて検討していきます。

作業部会などの様子については、村ホームページに随時掲載していきますので、そちらもご覧ください。

設計は、平成25年度末までに実施設計を終え、工事は平成27年度中の完成を目指しています。

●問い合わせ  
交流拠点整備室(内線398・399)